



謝花昇銅像移設 除幕式

旧東風平町出身で沖縄の自由民権運動に一生をささげた謝花昇の銅像の移設作業が完了し11月11日、除幕式が東風平運動公園内で行われました。銅像はまちのシンボル八重瀬岳をはじめ町域を見守るように堂々とそびえ立っています。出席した関係者約100人が偉人の遺徳をしのび、後世に継承することをあらためて誓いました。式典の中で門中を代表して謝花昇さんが「昇先生も大変喜んでいらっしゃると思う。子々孫々まで偉大なる先人の足跡を再確認し、後世に語り伝えていきたい」とあいさつ。

中村信吉町長は「県民に大きな影響を与えた偉人、謝花昇先生の功績は私たち町民の大きな誇り。その遺徳をしのび、これからも未来永劫顕彰していかなければならない」と決意を示しました。また、式典の後には玉城流翔節巴之会会主の具志堅イク子さんによる古典女踊「柳」の奉納や東風平老人クラブによる献奏が行われました。

長寿を祝ってパレード

八重瀬町伊覇の神谷ユキさん(95)の数え年97歳を祝うカジマヤーが10月31日、同地区で行われました。パレードと祝賀会には親類や地域住民が詰め掛け、元気な神谷さんを盛大に祝いました。

同日、神谷さんは華やかに飾られたオープンカーに乗車。区内3箇所の十字路で区民に風車や祝いのまじゅうを配って喜びを分かち合いました。神谷さんは「好き嫌いなく食事をとり、ゲートボールで体を動かすことが健康の秘訣。孫の顔を見ることも楽しみ」と笑顔で話しました。



土地利用計画案を諮問
八重瀬町の土地利用行政の指針となる第1次八重瀬町国土利用計画案が10月29日、中村信吉八重瀬町長から町総合開発審議会の神谷栄助会長へ諮問されました。利用計画は国土利用計画法に基づき、町の土地利用の基本方針や区域ごとに利用目的などを定めています。町の計画案における基本方針では、優良農地の保全や整備とその高度利用、自然環境への配慮、土地整理事業に伴う新たな市街地における都市機能集積や住宅環境の創出などがうたわれています。



東風平中学校生徒が清掃活動

日頃利用している東風平小学校の裏にある宮森公園をきれいにしようと、東風平中学校の生徒たちが、10月21日清掃活動を行いました。その日は、生徒約15名が集まり、ごみや空き缶の収集に汗を流し、看板の設置も行いました。地域住民の方々にもまちをきれいに意識の高揚にもつながり、充実した清掃活動となりました。参加してくれた東風平中学校の皆さんありがとうございました。今後とも地域の公園として大切に利用していきましょう。



町内で熱帯果樹の品種収集
北海道樺戸郡浦臼町の農業生産法人神内ファーム21が八重瀬町世名城で、マンゴーなどの熱帯果樹の苗木を収集させ、栽培する計画を進めています。11月2日には沖縄分場の地鎮祭が世名城の予定地で行われました。同予定地では世界の熱帯果樹の栽培品種を収集、保存、交配育種の作出などの事業を展開します。
神内ファーム21は、大手消費者金融会社「プロミス」創業者でもある神内社長が1997年設立し、「克冬制夏」を企業理念として掲げ、北海道の6つの牧場で黒毛和牛などの飼育や南国果実の生産などに取り組んでいます。本年度は道内のビニールハウスでマンゴー約1トンを生産しています。



地域貢献を目的にシルバー人材センターが清掃活動

八重瀬町シルバー人材センターが10月27日、具志頭改善センター付近の清掃活動を行いました。毎年10月はシルバー人材センター事業普及促進月間となっていて、地域社会への貢献を目的に実施しました。当日は、会員約20人が集まり、草刈や樹木の剪定作業、ごみや空き缶収集に汗を流しました。事務局長の金城正和さんは、「八重瀬町シルバー人材センターが設立されて2年目。社会に果たす役割や期待も大きく求められています。これからも地域に貢献できるようにがんばりたい」と話しました。
当センターの入会者は、年齢六十歳以上です。すでに退職している健康な方なら誰でもできます。公共施設の管理をはじめ、公園などの樹木の剪定や清掃など様々な社会協力・貢献が業務。興味のある方は、八重瀬町シルバー人材センター(TEL:998-10013)までご連絡ください。



第1回仲座角力大会の夕べを開催

仲座青年会が10月24日、仲座公民館前広場において第1回目となる仲座角力大会の夕べを開催しました。当字の活動が少なくなったことを受けて仲座青年会が仲座区民の懇親を深めるために開催。当日は、字内外から約500人以上の観客、選手が集まりました。小学生の部では4年生が6年生相手に勝利する場面も見られ、また、青年の部においては、迫力ある真剣勝負が行われ、観客から対戦ごとに大きな歓声が沸き起こっていました。また、親子角力対決もあり、親が子に投げられる場面も。周囲からは歓声と笑い声が沸き起こっていました。城田元気仲座青年会会長は「大会を通して字民の団結と懇親を深めることができ、字の活性化に繋がった。来年度からも継続していきたい」と話しました。

